

年頭のご挨拶

変革の時を迎え諸課題に全力

国民健康保険中央会
会長 岡崎 誠也



新年あけましておめでとうございます。
平成30年の新春を迎え、一言ご挨拶を申し上げます。

皆様には日頃から国保中央会の運営に対しまして、ご協力とご支援をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

さて、我が国の経済は一部持ち直しの動きが見られるものの、急速な高齢化等による医療費の更なる増加が必至の状況にあり、国保の運営は今後とも厳しい状況が続くものと見込まれます。

そのような状況の下、いよいよ4月から、都道府県が財政の責任主体となり、市町村とともに国保の運営を担うという、半世紀ぶりの国保制度の大改革が実施されます。

都道府県や市町村、国保連合会の準備が最終段階に入っており、本会においても、都道府県の事業費納付金の算定や市町村の新制度対応に必要な国保保険者標準事務処理システムの開発などを通じて、新制度が順調にスタートできるよう引き続き全力を尽くしてまいります。

また、昨年10月に公表しました「国保審査業務充実・高度化基本計画」に基づき、ICTの活用等による審査業務の高度化・効率化に向けて、これまで以上に積極的に取り組んでいかなくてはなりません。

加えて、社会保障・税番号いわゆるマイナンバーを活用したオンライン資格確認システムの開発など、直面する重要な課題にも適切に対応してまいりたいと思います。

さらに、医療保険者にデータヘルスの積極的な取り組みが求められる中、地域住民の方々の健康を確保していくため、健診・医療・介護のビッグデータを活用して、それぞれの健康状態等に即した様々な取り組みを積極的に進めていく必要があります。

本会及び国保連合会では、こうしたデータを横断的に活用できる国保データベース（KDB）システムを開発し、健康づくりの基本となる各種データの提供を行っておりますので、より効率的で効果的な健康づくりに貢献できるよう努力してまいります。

国保制度が大きな変革の時を迎える重要な時期にありますので、本会としては、全国の国保連合会の皆様とこれまで以上に一体となって、全国知事会、全国市長会、全国町村会をはじめとする地方関係団体とも十分に連携を図りながら、諸課題の解決に向けた取り組みを全力で進めてまいりますので、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が明るく希望に満ちた素晴らしい一年となることを心からご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

平成30年 元旦